

事例研究報告

特別支援学校小学部児童への ポジティブな行動支援

児童の実態

<行動面>

- ・言葉での簡単な指示を理解することができる。自発的な発語はあまりない。音声模倣はある程度できる。
- ・注意，制止，修正，介入等が苦手。タイミングにより，爪立て，噛みつき，叩く等の行動が出る場合がある。

<学習面>

- ・平仮名（清音）を読むことができる。
- ・1～10までの数と量のマッチングができる。

<人間関係>

- ・高い声や音，泣き声などは苦手で，不安定になることがある。

保護者の願い

- ・落ち着いて人の話が聞けるようになってほしい。
- ・他者との関係を築けるようになってほしい。

教員の願い

- ・イライラした時や不安定になった時に、暴力等の不適切行動ではなく、カード等で休憩を要求できるようになってほしい。
- ・自分の気持ちや要求を相手に伝えるために、コミュニケーションの幅を広げたい。

アドバイザーからの助言(1回目)



○称賛回数を多くしよう！

- 行動問題を起こすことで注意を受ける機会が多い。
- 頑張ったことやスケジュールに沿った活動ができて
いることに対して細かく称賛し、強化する。

○本児のモチベーションに繋がる称賛方法を 確立しよう！

- 言語称賛では強化は難しい。
- 称賛は本児が「やった！」と思えるような好子を用意することで伝える。
- ご褒美＋言語称賛で、言語称賛がいいことであることを教える。

助言を受けての見直し



○好子探し

- 本児の学校での遊びはパズルがほとんどである。
- 称賛時のご褒美に使えるよう、他にどのようなこと・物が好きなのか探した。
- ⇒好きなおもちゃをいくつか発見。好子として活用する。

○本児にとって分かりやすい称賛サイン探し

- ご褒美＋言語＋サインの3つで称賛していけば本児にとってより分かりやすいのではないか。
- 称賛時にいろいろなサインを試し、反応が1番良かった「goodサイン」に決定した。



指導の手続き

【介入①】

○「goodタイム」の設定

- 1日の活動の区切りの良いところに「goodタイム」を設定。スケジュールにチップを付け、視覚的に分かりやすいようにする。
- 「goodタイム」では、言語と「goodサイン」で頑張ったことを称賛しながら、反応の良かったおもちゃ(好子)を渡す。
時間は1分間とする。

指導上の留意点

【介入①】

○「goodサイン」で称賛を担任間で徹底

→「goodタイム」以外の称賛の時にも
言語とグーサインを一緒に用いるように
担任間で共通理解し、こまめに称賛していくよう
心がける。



○個別スケジュールの作成

→初めての活動や見通しが立ちにくい
授業(生単, 行事等)に用いる。
→「goodタイム」の時間も明記する。

せいたん		
	スケジュール	つかいへんこう
1	あいさつ 	
2	せんせいのほなし 	
3	えらぶ 	
4	ゆきだるま いろづけ 	
5	きる 	
6	はる 	
7	くーたいむ 	
8	まっ 	
9	ゆきをふらそう 	
10	はる 	
11	せんせいのほなし 	
12	あいさつ	

アドバイザーからの助言(2回目)

【継続事項】

- 「goodサイン」での称賛
- 個別スケジュールの利用

【改善事項】

- 授業内の待ち時間を減らそう！
 - 待ち時間(見る・聞く時間も含む)が多くなると、逸脱や問題行動のリスクが高まる。
- 「goodタイム」の遊具を精選しよう！

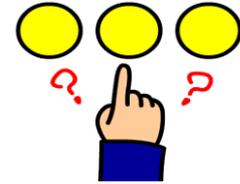
【ステップアップとして】

- 友だちとの関わりを積極的に増やしていこう！
 - 友だちやクラス全体での活動を増やし、負荷をかけた状態でも不適切行動がでないよう取り組む。

指導の手続き

【介入②】

- 「goodタイム」時の遊具を選択制に
→遊具の好みを調べ、種類を精選する。



○授業内容の改善

- 友だちやクラス全体で、共同・協同した活動を組み込み、ステップアップを図る。

※活動例

☆生単(調理)⇒1人がボウルを押さえ、1人がマッシャーでさつまいもを潰す。

(運動)⇒2人でキャッチボールをする。

☆図工⇒2人で、クリスマスツリーに飾りを貼る。

記録方法と記録

【記録方法(介入①②共通)】

○暴力等の行動の記録

Lv.1…教員や児童を触る。

Lv.2…教員や児童に爪を立てるふりをして触る。
(痕が残らない)

Lv.3…教員や児童に爪を立てて触る(痕が残る)。
突き飛ばす。

Lv.4…教員や児童に噛みつく。

○ゲーサインでの称賛回数の記録

○「goodタイム」のおもちゃの種類、数の記録

【記録方法(介入②より)】

○「goodタイム」で選択したおもちゃと回数の記録

指導の成果

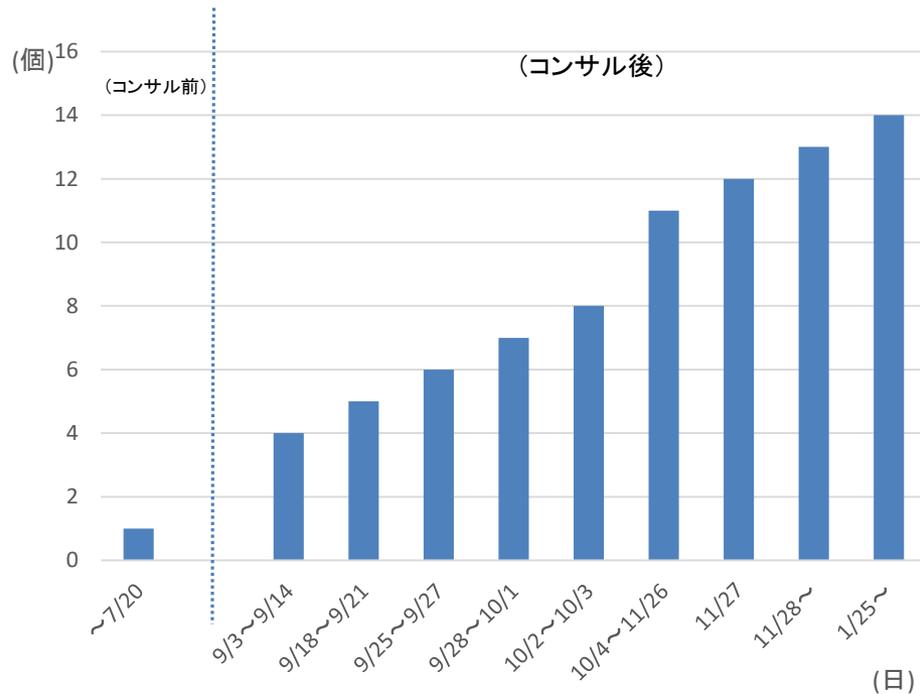
<遊び道具数>

・飽きないように、本児が興味を示しそうなおもちゃを増やしていった。

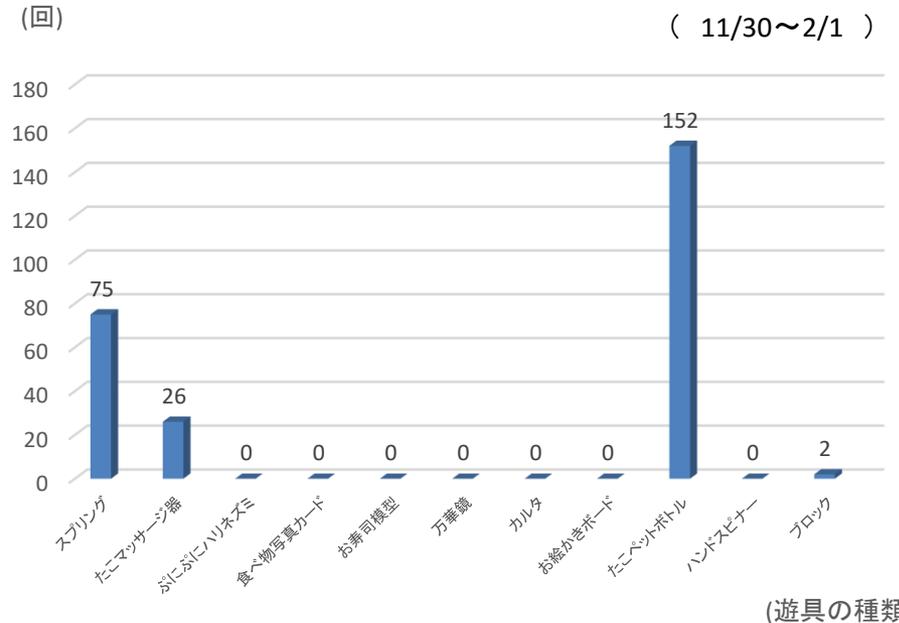
<遊具の選択>

・選択制にすると、選ぶおもちゃはほぼ同じ物が多かった。

遊び道具の提供数



ぐーたいむに選んだ遊具の種類



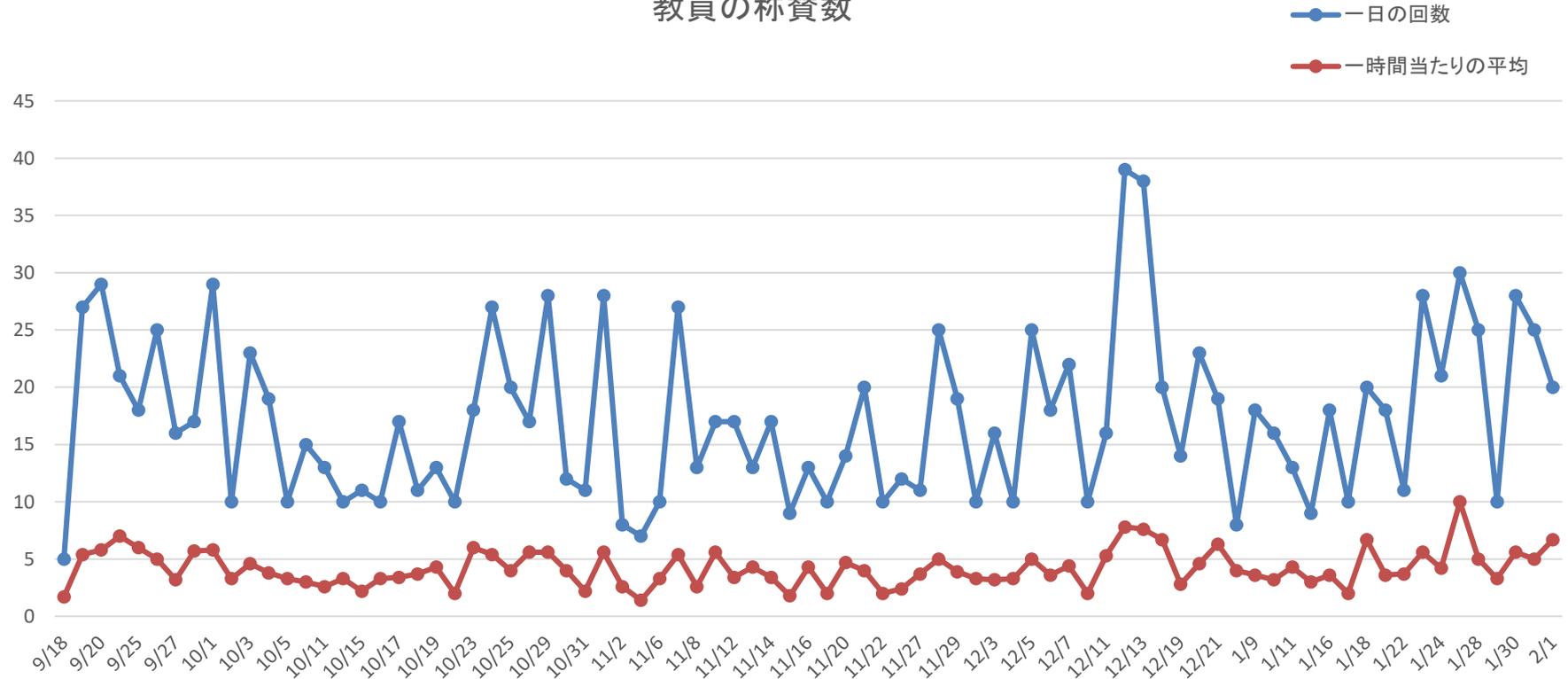
指導の成果

<称賛回数>

- ・コンサル前と比べて、教員の称賛回数が増えた。
- ・日によって称賛回数にばらつきはあるものの、1時間あたり5回程程度の称賛を行うことができた。

教員の称賛数

(回)

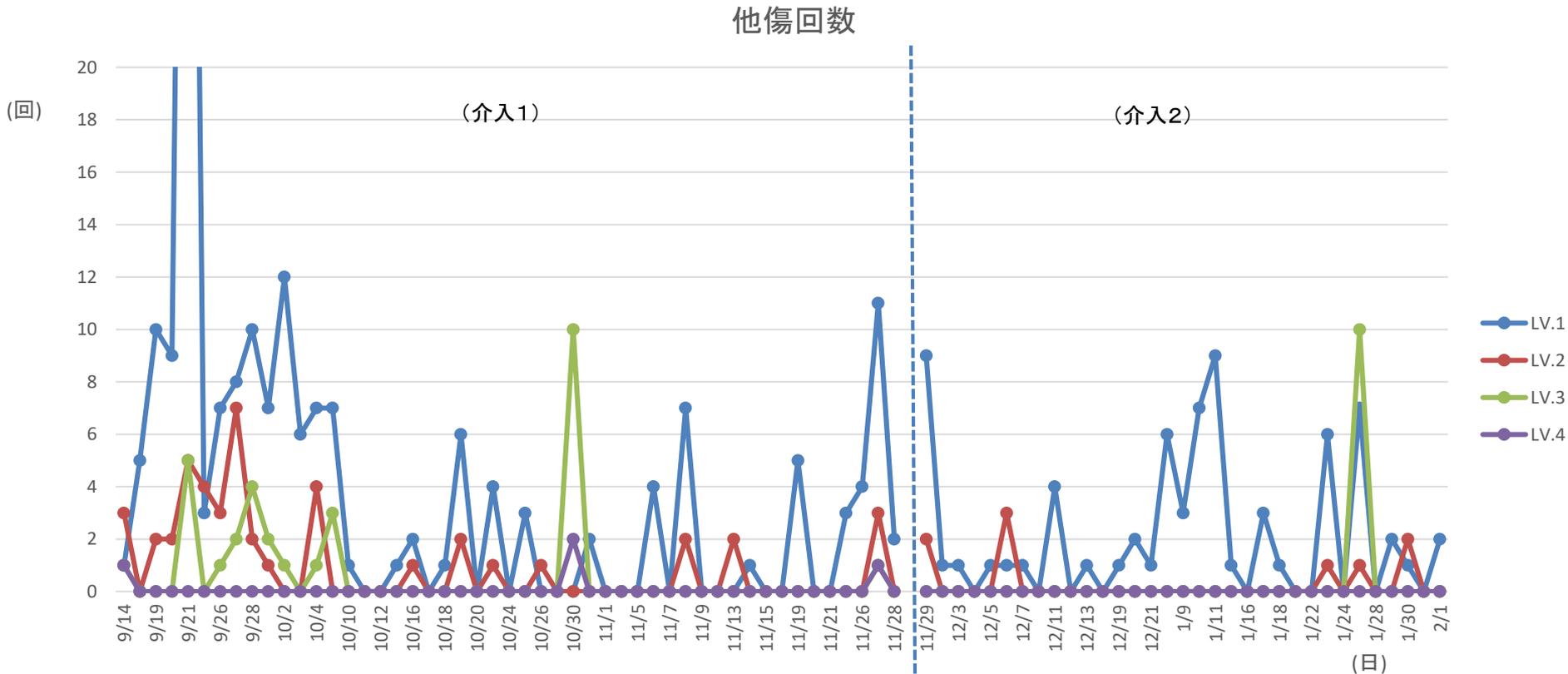


(日)

指導の成果

<暴力等の行動の回数>

- ・教員の何気ない言葉かけや指示等で，不安定になり問題行動をとることが少なくなった
- ・「ゲー」が称賛であることを理解してきており，「ゲー」を見て笑顔になったり，自らゲーサインを返してきたりするようになってきた



ここが成功のポイント



○使いやすく, 分かりやすい称賛方法の確立

→「goodサイン」や「goodタイム」での称賛が本児にとって分かりやすく, 「good」=「肯定的な言葉かけ」ということへの理解につながった。

○教員間で情報共有し, 一貫した指導

→「goodサイン」での称賛を教員間で徹底
教員からの称賛回数を大幅に増やすことができた。



☆教員の普段の言葉かけや指示に対して, 暴力等の行動をとることがほとんどなくなった。初めての活動や苦手な活動にも, 参加できることが多くなってきた。

コンサル前と後での児童の変容

Before

・活動途中の教員による介入が苦手だった。

・イヤーマフの装着が難しい。

・集会や文化祭の表現活動等、大きな音のある環境での活動に制限する。

・何気ない言葉かけや指示が問題行動のきっかけになることがあるため、称賛回数が減る。

After

・「good」で称賛することで、受け入れることができた！

・イヤーマフが装着できた！

・イヤーマフをつけることで、参加できる活動が大幅に増えた。また、楽しく参加できた！

(教員)・称賛方法が確立し、称賛回数が増えた。
(児童)・教員の言動に対する問題行動がほぼなくなり、活動に参加しやすくなった。